

「OTC 医薬品学（改訂第 2 版増補 第 1 刷）」サポート情報

「OTC 医薬品学（改訂第 2 版増補 第 1 刷）」について、以下の通り最新の情報を提供いたします。

頁	該当箇所	旧	新
119	5 行目	過敏性腸症候群	慢性の過敏性腸症候群
120	表 8-4 “Symptoms associated” 「下痢」の欄	炎症性腸疾患，膵炎，過敏性腸症候群	急性腸炎（食餌性），炎症性腸疾患，膵炎，過敏性腸症候群
122	6 行目	消化不良等が原因となる。	消化不良等により胃酸の過剰分泌や消化管筋肉の痙攣をきたし疼痛の原因となる。
122	③月経痛の項目 1 行目	③月経痛	③月経痛（月経困難痛）
122	③月経痛の項目 2 行目		冒頭に「機能性：」を付記
122	③月経痛の項目		[最後に以下を追加] 器質性：子宮筋腫，子宮内膜症，子宮形態異常等が関与しているもの。
123	「8-6 受診勧奨」の項		[以下に差替え] 1. 慢性経過の場合 2. 体性痛・関連痛を認める場合 3. 腹部疾患の既往歴・手術歴を認める場合 4. 発熱を認める場合（感染性腸疾患が示唆される場合は経過観察可能） 5. 体重減少を認める場合 6. 背部痛を認める場合

			<p>7. 血便を伴う場合</p> <p>8. 皮膚所見を認める場合（とくに下肢）</p> <p>9. 薬剤性腸炎が疑われる場合</p> <p>10. OTC医薬品で改善が認められない場合</p>
123	参考文献欄		<p>[2) の文献を以下に差替え]</p> <p>2) 福土審：過敏性腸症候群の診療総論—現状と今後の展望. 日消誌116：543-551, 2019</p>
124	9-1 項 10 行目	心因性の急性下痢および過敏性腸症候群	心因性等の急性下痢および機能性消化管疾患（FGIDs）に含まれる過敏性腸症候群
126	表 9-3		欄外の表に差替え
126	「②過敏性腸症候群」の項目 1 行目	大腸および小腸に	FGIDsに含まれ大腸および小腸に
127	「9-6 受診勧奨」の項		<p>[以下に差替え]</p> <p>1. 慢性下痢（過敏性腸症候群を除く）の場合</p> <p>2. 体性痛・関連痛を認める場合</p> <p>3. 腹部疾患の既往歴（手術歴を含む）を認める場合</p> <p>4. 随伴症状を認める場合</p> <p>①発熱</p> <p>②体重減少</p> <p>③悪心・嘔吐</p> <p>④血便</p> <p>⑤皮膚所見（とくに下肢）</p> <p>他多数</p> <p>5. 薬剤性腸炎が疑われる場合</p> <p>6. 海外旅行後の場合</p>

			7. OTC医薬品で改善がみられない場合
127	参考文献欄		[2) と3) の文献を以下に差替え] 2) 福土審：過敏性腸症候群の診療総論—現状と今後の展望. 日消誌 116 ：543-551, 2019 3) Lacy BE, et al: Bowel Disorders. Gastroenterology 150 ：1393-1407, 2016
129	↑3行目	診断基準については	診断基準 (Rome IV) については
131	「10-7 おわりに」の項目		[以下に差替え] 機能性便秘に対する薬剤師のプライマリ・ケアとしては、OTC 医薬品による薬物療法以外に、快便感を得ることをコントロールの目標として、排便指導（1日の決まった時間での排便，排便時には肛門の位置を両膝より低く設定）を行う。また予防法としての食事関連（1日3回の食事摂取，食物繊維の種類・摂取量（1日25g以上））および運動関連の生活指導について表 10-2 に示した。
131	「10-7 おわりに」の項目		欄外の表（表 10-2）を追加
131	参考文献欄		[2) の文献を以下に差替え] 2) 福土審：過敏性腸症候群の診療総論—現状と今後の展望. 日消誌 116 ：543-551, 2019

●表 9-3 過敏性腸症候群の診断基準(Rome IV 2016 年)

- 腹痛が
- 最近 3 ヶ月のなかの 1 週間につき少なくとも 1 日以上を占め
- 下記の 2 項目以上の特徴を示す
 - (1) 排便に関連する
 - (2) 排便頻度の変化に関連する
 - (3) 便形状(外観)の変化に関連する
- 4 型(便秘, 下痢, 混合, 分類不能)に分類される

*最近 3 ヶ月間は上記の基準を満たす。

少なくとも診断の 6 ヶ月以上前に症状が出現。

(Lacy BE, et al : Bowel Disorders. Gastroenterology 150 : 1393-1407, 2016 より作成)

●表 10-2 便秘症に対する生活指導

予防法	項目	方法
食事関連	回数	1日3度の規則正しい食事摂取(とくに果物)
	食物繊維	水分を保持し, 腸の蠕動運動を高めて排便をさせる 多く含む食品の例: キャベツ, 大根, りんご, みかん, イモ類, 海藻類, こんにゃく, アロエ, プルーン, 穀類, 豆類, ごぼう等
	ダイエット	過度に行うことで自律神経が乱れて腸の動きが悪くなる
	発酵食品	納豆やヨーグルトなどは便秘を改善する
	水分	1日にコップ7~8杯ほどの水分を摂る, 起床時にコップ1杯の冷水や牛乳を飲むと, 腸が刺 激されて排便が促される
運動関連	時間	1日10~15分くらい簡単な腹筋運動
	骨盤底筋群	肛門を強く締めた状態で5秒間持続し, 緩める方法やスクワットなどの足腰の全体運動
	全身	ウォーキング, 水泳, ヨガ等
	マッサージ	お臍の周りを「の」の字を描くようにゆっくりと約30回
	保温	腹巻, カイロ, 入浴等により, 腸管の動きが高まる

2026年2月17日

株式会社南江堂